〔特別寄稿〕

文華苑の草と生き物と

大和文華館前館長夫人　吉川マリ

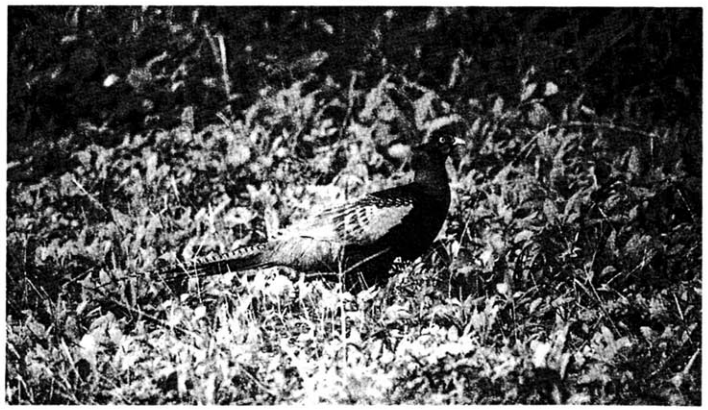
こちらに来たては本当に自然がいっぱいでした。池の中の流木の上では、亀が沢山日向ぼっこしていたり、蛙が居て、蛇がいて、山に入ると兎の糞がいっぱいあり、狸のもありました。またイタチと顔を見合わせたこともありました。山草の種類も多く、すぐに目につく百合の類は別として、気が付かなければ踏んでしまいそうですが、山草マニアとしては興奮するほど多種類でした。各地で数少なくなった日本タンポポが沢山あり、沢山の種類のスミレ、そしてキンラン、ギンランはもとより春蘭、稚児ユリ、ショウジョウ袴、一薬草、トンボ草、釣り鐘人参、蔓リンドウ、リンドウ、桔梗、ワレモコウ、秋のキリン草、アザミ……ただ、保安の人達が、丁寧に草を刈っていた頃とちがって、最近、業者が草を刈るようになってからは、はやく綺麗になる一方、残念ながら一生懸命探しても、見つからないものの方が多くなりました。

鳥も種類豊富でした。ホトトギスの声をきいたときはゾクゾクしましたし、雉が出てきたときも、嬉しくて夢中になりましたが、このところ、小綬鶏の連れている雛の数を数えるくらいが楽しみになってしまいました。山の中を歩いていて、キツツキのあけた穴だらけの枝を拾いました。嘴の痕が小さいので、多分コゲラでしょう、エナガ？コガラ？の群れに混じってギーギーと鳴きながら、木の幹をツツーと上がっていくのを時々見掛けます。

茂った葭のなかでけたたましく鳴く大ヨシキリの声を聞き、今年もこの季節が来たことを、そして今年もまた元気で来てくれてよかった……。

ひよどり巣立

雉



何年か前の雪害、松食虫、そこに加えて台風と、山の木々がいたんで透き透きになってから、鳥の数が減ったような気がします。餌になる虫も、木の実をつける雑木類も数を減らしつつあるせいか、前ほど鳥の声を聞くことも少なくなったようです。それでもウグイスの声はかなり長く聞かれますし、巣立ち直後の雛を連れて群れで行動する四十雀、ピラカンサの実をつつきにくるジョウビタキ、けたたましい声をあげて山へ逃げ上がるツグミ、意地の悪いヒヨドリ、人を恐れないアオジなどが季節によって見られ、いつもいるカラス、スズメ、ヤマバト以外に、流れのそばで白鶺鴒は毎日のように、そして黄セキレイも尾を動かしながら歩く姿をみることが出来ます。数年前から、下水道が少しづつ整ったおかげで、ドブとしか言い様のなかった流れが、一寸綺麗になり、小魚がチョロチョロするようになって、ほんの一瞬ですが、目の前を翡翠色の背を見せて飛去るカワセミを見ました。秋の終わりの日暮れ頃、蝙蝠が水銀灯の上を、ヒラヒラ輪をかいて飛んでいたことがあり、まだどこかにねぐらになる自然が残っていることを嬉しく思いましたが、その後出会っていません。

自然を残すことは案外難しいことですし、いろいろかかわる人達の趣味の問題もありますが、でも、折角のよいところは、これからもぜひぜひ残しておいてと、願っております。

季刊 美のたより №127
平成11年5月20日
発行　大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.